

# 新聞少年



岡崎文化協会

会長 會田 規世児 氏

## 教育随想



平成15年6月1日

# 6月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
岡崎文化協会 会長 會田規世児氏	
この人に聞く	2
南遊の会 事務局 加々良弘道氏	
羅針盤	2
常磐小学校長 丹沢 英喜	
ふれあい	3
矢作西小 畑 小普 南 中 稲葉志げ美	
特集	4
広がる おやじの会	
岡崎市の教育予算	6
お知らせ	8
フォト・ヒストリー	10
学校図書館教育 (昭和61年)	
この本を	10

新聞少年の歌がヒットして、新聞配達の少年が脚光を浴びた時代があった。

小学校五年生のころ、私も小学校五年生から二年ほど、新聞少年の一人であった。世界大戦末期、新聞は今ののように、何十ページなんて大袈裟なものでなく、朝刊が四ページ、夕刊が二ページで百三十軒分を、小脇に抱えて走ったものであった。辛かったのは、朝五時の起床だったが、自分の意思で始めたのだから、愚痴は言えなかった。

私の家は育ての父と母、そして弟二人と妹の六人家族であった。四人兄弟の長男的、母の連れ子という立場に、母の気遣いも薄くなるのは当然だし、小遣いを貰えるという時代でもなかった。

自然、独立独歩の気持ちが養われたのか、自分でお金を貰える手段に

新聞少年を選んだのである。貧しき者の多かった時代、その収入を自分で使うことは出来なかったが、少しは自分で稼いだお金を使える喜びを知ったのである。

しかしその反面、学業はおろそかになり、宿題をしない日があり、ひどく先生に叱られた。

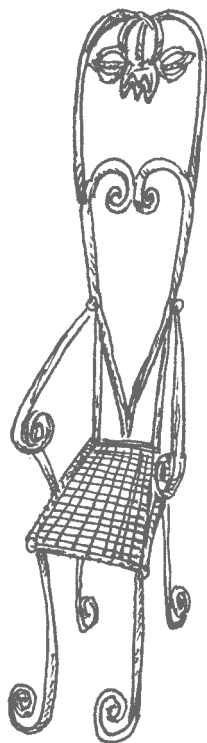
叱られたのがきっかけだったような気がするが、高等科(今の中学一年)で、登校拒否になり、勝手に紡績工場に就職してしまった。

現在、南中学校と小豆坂小学校のゲストティーチャーとして、年にそ

れぞれ三回ほど児童・生徒に接して、川柳のことを話している。「登校拒否は今もって大きな反省材料になっていること」と、「おろそかにした学業の悔いではじめた川柳は、十八歳から今に続いて、私のすべては川柳である」と言い切れるまでになったこと」を話し、「自分の好きなものを見つけたら、それを続けるということ」を勧めているのである。

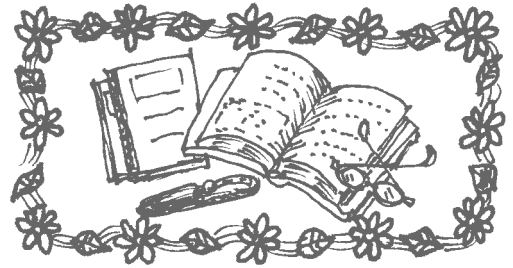
私と関わってよかったと、児童の礼状も重く、私の手許にあることが、喜びと励みになっている。

(あいだ きよじ)



# この人に聞く

ふるさとシリーズ



## マングローブの森づくりを通じた文化交流

南遊の会 事務局

加々良弘道 氏

「南遊の会」とは、ベトナムへの植林活動を通して、日本とベトナムの青少年の交流を図ろうと活動している、岡崎に事務所を置く非政府組織（NGO）である。

ホーチミン市農業農村発展局とカンザイ県人民委員会との間で合意調印した、十年間にわたる「日越青少年交流の森」プロジェクトが進行中である。

この会は、絵はがきを売っていたストリートチルドレンとのふれあい

から、ベトナムに魅せられた会長である石丸龍氏（ホーチミン市駐在）や事務局を担当している加々良さんから五人で結成された。今では会員が全国から集まり、その数は百四十名を超えている。

ベトナムを初めて訪れた時の印象を、

「メコンデルタ地帯はベトナム戦争当時、枯葉剤で壊滅した。今では三百六十度マングローブの森で埋め尽くされ、地平線まで緑一色の大地を目の当たりにして感動した。」

と話してくださいました。また、

「今、ベトナムの人たちの生活はたくましく、強気に躍動しており、子供たちの目の輝きに強い印象を受けた。」

と、しみじみ振り返られた。

この会では、毎年スタディツアーを開催し、多くの学生たちが参加している。そこでは、植林活動だけで

はなく、



ベトナムの学生とベアでの宿泊、現地の小学校

への訪問などの活動も取り入れ、異文化に触れる中から、多様な生き方や考え方を学び合う機会を提供している。

ツアーに参加する学生への思いを次のように話された。

「ベトナムでは地方から出てきて自分で働きながら学ぶ子がほとんどです。ベトナムの生活に触れ、日本の学生が自分の価値観や信念を見出してくれることを確信しています。」

林訥ぼくちとした語り口の中にも強い願いが感じられる一言であった。

「日本人だけでなく、世界の国々の子供たちも入れて『世界青少年の森』に広がっていったらと思います。」

加々良さんをはじめ会の皆さんの思いは果てしがない。

「十年後、自分たちの植えた木がどうなっているか。そして、自分たちが交流した学生がどんな生活を送っているか。そんなことを気にしながら会が続くといいですね。」

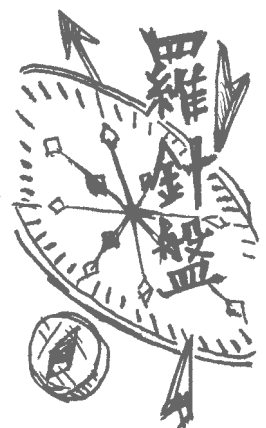
今年も三十二名の学生が、ベトナムへ飛び立つ。

氏 名 加々良 ひろみち  
住 所 竜美東一—二七

## 褒める 叱る

常磐小学校長

丹 沢 英 喜



ある高学年の担任は、子供たちが毎日書いている生活日記から、共通の話題とした事柄を取り上げ、全体に投げかけている。そのことにより子供たちは問題意識を持ち、良い面をさらに伸ばそうと競って努力するようになった。気づかせ、認め、褒め、励ますことが子供のやる気を引き出し、子供の伸びようとする力に良い刺激を与えることになったのだろう。

子供も大人も褒められればうれし  
いが、褒められるに値するものでなければ決してうれしとは思えない。さほど努力しないでたまたま出た良い結果を褒められるより、結果や成果は十分上がらなかったが、その過程で努力したことが認められ励まされたとしたら、どれだけうれしいことか。「褒める種を蒔け」と大

## 鹿乗川クリーン大作戦

矢作西小 畑 小普

学区を流れる川、鹿乗川をきれいにしたい。そんな六年二組の子供たちの願いから、「鹿乗川クリーン大作戦」を行った。

「去年は二年生から五年生までの清掃だったが、川のごみはけっこうあるし、全校でやったほうがいい。」  
「大人の人も手伝ってもらえないかなあ。」

次々と出た自分たちの考えを実現するために、OC委員会で提案したり、学区に回覧板を回したりと事前に行うことが山のようにあった。準備は、積極的に意見を出したA子を中心に意欲的に進められていった。大作戦当日、一年生から大人まで



川のごみを必死で拾った。清掃はあつという間に終わった。

川をきれいにした満足感だけでなく、協力のすばらしさを改めて実感したA子たち。「来年もぜひやってほしい」「学区に鹿乗川がある学校も協力していきたい」と、さらに前向きな提案がされた。

今年の「鹿乗川クリーン大作戦」は、矢作中、矢作南小と合同で実施することになった。子供たちの思いが活動の中で深まり、そして、参加する人々の広がりを生み出し、やる気を膨らませている。

## 信じる

南中 稲葉志げ美

「わたしは皆さんに告白しなければなりません……。」

生徒会役員選挙の立会演説会で、全校生徒の前にA子は話し始めた。三月上旬に起こした自分の過ちを正直に告げたのだった。

A子は私が顧問をしている部活動の部長。過ちの事実を知った時の私



のショックはとても大きかった。

「わたしは、あなたたちを信じる。今まで通りあなたたちを信じ続ける。それから、心の弱さに気づけなかったことを、わたし自身反省している。」

A子の瞳を見ていたら、自然とこんな言葉が突いて出た。生徒たちの顔を見ていたら、「信じたい」と心から思った。

立会演説での告白に、私はA子の心の成長を思っ涙が出た。演説後の彼女に歩み寄り、「よく言ったね」と言葉かけた。すがすがしい笑顔が返って来た。

A子は、生徒会役員になることはなかったが、部活動では中心になっている。賞状にいま一歩及ばなかったものの、県大会ではベスト8。

今、A子の部活ノートには、大きな字で「己に負けない!」と書いてある。最後の夏が楽しみだ。



村はま先生が言われているように、表面に出た現象だけをとらえ褒めるのでなく、子供の現状を把握し、ヒントや励みとなる目標を与え、それに向かって努力する姿を認め褒めてやりたいものである。

叱るより褒めるに越したことはないが、叱ってやらねばすまないこともある。清掃中、不注意でガラスを割った子供がいた。担任は子供と共に割れたガラスの片付けを終え、子供の目を見つめ、静かな口調ではあるが凛とした態度で諭した。ごまかし笑いをしていた子供も自分が悪かったと反省し、涙を流した。たいへん良い場面を見た思いがした。もし悪ふざけによって起こったことを曖昧にしてしまったら、自分の行動に責任がとれず、同じ過ちを繰り返すことになりかねない。叱られるべき場面で叱られなかったとしたら、子供にとって不幸なことである。

中国の古典『古文真宝』に、「子ヲ養ヒテ教ヘザルハ父ノ過ナリ、訓導シテ嚴ナラザルハ師ノ惰ナリ」とあるが、ここぞという時に魂を込めて叱り諭すことが子供の魂に触れ、生きた教えになるものと思う。

子供の成長を願って、褒めるのも叱るのも真剣勝負でありたい。



▲ おやじの会主催「<sup>たこ</sup>風揚げ大会」(六ツ美西部小)

近年、父親たちが体育大会などの学校行事に積極的に参加したり、バザーや奉仕活動、スポーツ懇親会などPTA活動において中心的に活躍したりする姿を多く見かけるようになった。

父親たちの活動である通称「おやじの会」について各校から寄せられたアンケートによると、その結成時期は早い学校で平成十三年度当初である。そしてこの二年の間に合計十校が立ち上げている。

梅園小では、当時のPTA役員から「父親が子育てにもっとかかわるべき」と声があがり、ソフトボールの親善試合を通し、父親参加を呼びかけて始まった。

また、東海中では平成十三年七月、校内で子供の手が届かないような場所の草刈作業をおやじの会が行った。草刈機七台であつという間にきれいにしていく様子や、急斜面をいとも簡単に作業を進めていく姿に子供たちは驚嘆の声を上げた。そののTシャツを身につけた「おやじたち」はまさに英雄であつたというエピソードがある。

「おやじの会」の活動内容は、各校でさまざまであるが、奉仕的な活動が多いのが特徴である。時には酒も交えて話し合ったという、父親たちの子育て参加に対する前向きな姿勢の意義は大きい。

学校では、より多くの父親が学校へ足を運べるよう行事の改革や工夫を図ったり、親子のふれあいの場を設定したりしている。父親が子供の教育に関心を高め、大きく役割を担っていくことが、今よりいっそう求められている。



▲ ポン菓子づくり (六ツ美南部小)



▲ 「おやじの会」の名入りTシャツを着て作業 (東海中)

# すごいな！



▲ ネイチャーランド建設 (矢作北中)



▲ アクアリウム台製作 (梅園小)



▲ プロも混じってのペンキ塗り (美川中)

## ▼ おやじの会の現状 (アンケートより)

名称 (学校名)	結成年月日	会員数	構 成 員	主 な 活 動
父親協力隊 (梅園小)	13. 4.23	18	PTA会員	バザー出店、水槽台作成、親善ソフトボール
おやじの会 (根石小)	14. 6. 1	31	PTA会員	クワガタとりの会、火起し体験、Tシャツ作り
おやじの会 (六ツ美西部小)	14. 6.30	25	PTA会長 子育て	昆虫の館作成、バザー協連会長 OB 力
親父部 (六ツ美南部小)	13. 4.21	6	PTA会員	あいさつ運動、環境整備、米山量慰問、模型飛行機
城南・親父の会 (城南小)	14. 4. 1	24	学区及び周辺の父親	PTAバザー、学区子供まつり、球技大会
親父部 (美川中)	15. 3. 2	18	PTA会員	奉仕活動、ふれあい活動
おやじの会 (矢作北中)	13.10. 1	随時召集	PTA会員 OB	ネイチャーランドの建設 炭焼き工房建設
103S(トウサンス) (六ツ美中)	14.10. 3	25	PTA会員と地域の有志	スポーツ交流会 (ベタンクス)
おやじ隊 (岩津小)	14. 4. 1	13	PTA会員 OB 学区在住の父親	学校周辺パトロール、バザー参加、清掃奉仕活動
おやじの会 (東海中)	13. 7. 7	随時召集	PTA会員 OB	校内草刈作業、食品バザー、ソフトボール大会

# お父さんの力！

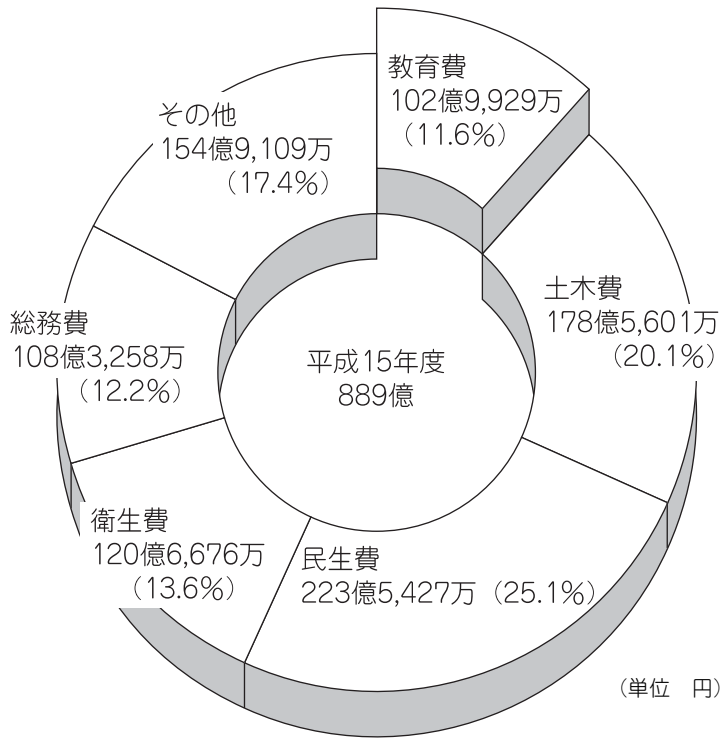


▲ 親子で餅つき大会 (岡崎小)



▲ バザーで出店 (城南小)

〈一般会計予算〉



文化の薫る  
人間性豊かなまちづくり

平成十五年度  
岡崎市の教育予算

◆平成15年度の特徴◆

小中学校施設の整備	
校舎改築	小学校 一校
校舎増築	小学校 二校
校舎改造	小学校 一校
屋体耐震補強	小学校 十四校
中学校 一校	
便所改修	小学校 二校
中学校 一校	
保健室空調設備設置	小学校 十九校
図書室空調設備設置	中学校 五校



▲校舎改築事業 平成14年度完成 (常磐中学校)

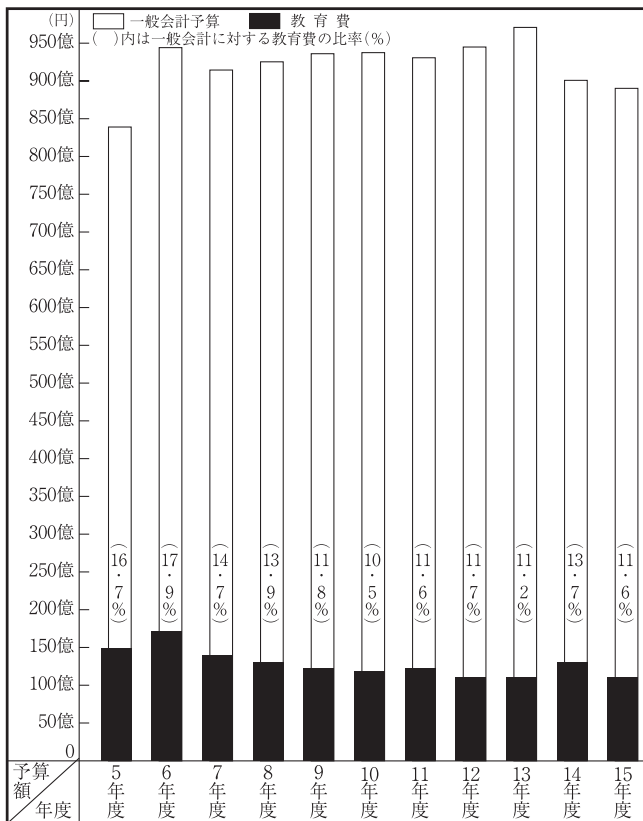


▲屋内運動場増改築 平成14年度完成 (竜海中学校)

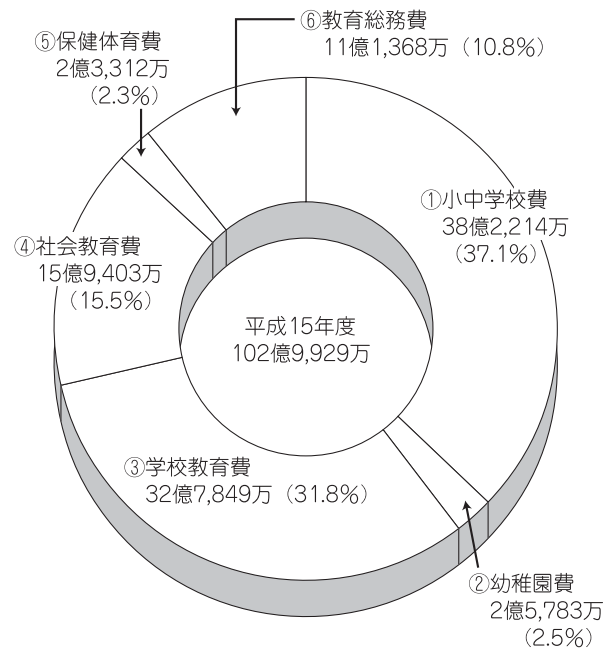


▲プール建設 平成14年度完成 (愛宕小学校)

◆ 一般会計予算と教育費の推移

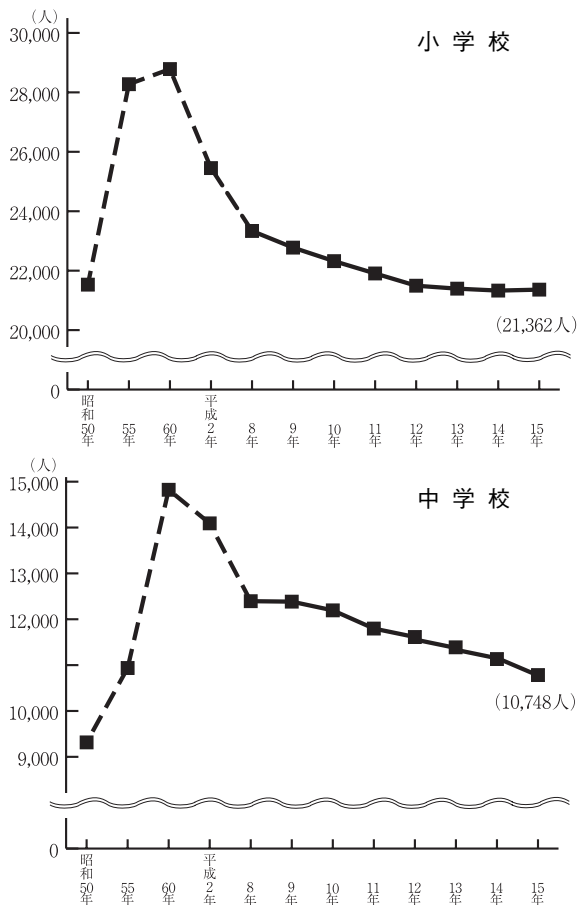


〈教育費の内訳〉



(単位 円)

◆ 児童、生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



◆平成15年度のあらまし◆

- ①小中学校費
  - ・校舎改築 (梅園小)
  - ・校舎増築 (恵田小・竜美丘小)
  - ・校舎改造 (常磐小)
  - ・屋体耐震補強 (細川小他13校・矢作北中)
  - ・便所改修 (美合小・藤川小・竜海中)
  - ・保健室空調設備設置 (根石小他18校)
  - ・図書室空調設備設置 (福岡中他4校)
- ②学校教育費
  - ・行事開催事業委託及び指導研修
  - ・教育の振興, 研究助成
  - ・児童生徒の健康保持
  - ・小中学校各種スポーツ大会開催
- ③社会教育費
  - ・岡崎市民芸術文化行事開催事業
  - ・図書館の管理運営
  - ・視聴覚ライブラリーの管理運営
  - ・少年自然の家の管理運営
  - ・生涯学習指導事業
  - ・社会教育学級事業
  - ・指定文化財保存事業費補助金
- ④保健体育費
  - ・体育振興事業
- ⑤教育総務費
  - ・私立高校授業料補助金
  - ・私立幼稚園就園奨励費補助金
  - ・奨学資金支給, 貸付事業

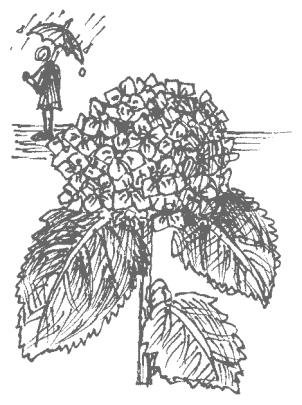


● 教育最新情報

○ 学習障害とその周辺の子供たちへの対応

教室では様々な子供たちが学んでいる。最近、通常学級に学習障害(LD)をはじめ、注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉症の子供たちの在籍する割合が高くなってきた。そこで、主な特徴とその対応や支援について紹介する。

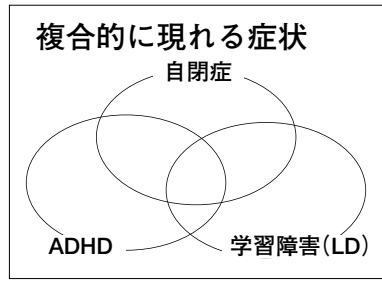
■ 学習障害(LD) 全般的な知的発達に遅れはないが、ある特定の学習する能力(読む、書く、話す、計算する、推論するなど)の習得と使用に困難が見られる場合を指す。その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されているが、視覚障害、聴覚障害、情緒障害や環境的な要因が直接の原因



因ではないとされている。注意欠陥多動性障害(ADHD)

注意力、集中力、衝動性に適切でない部分が見られる。脳の神経生理学的な観点で見ると脳内神経伝達物質の分泌に問題があり、自分の気持ちや行動をコントロールできないことにより、集団生活になじめないことが多くなる。

■ 自閉症 周囲の状況把握や関わりに困難が伴ったり、言語コミュニケーションが一方的であったり、言葉の発達の遅れや興味・関心が狭く、特定のものにこだわるといった傾向がある。「高機能自閉症」は、自閉症の特徴のう



ち、知的発達の遅れを伴わないものである。さらに、「アスペルガー症候群」と診断される言語障害が軽微なケースがあり、生来のハンディキャップに気づかれることが少なく、理解不足による不適切な対応を受けることがある。また、これらの障害は、複合的に現れることがあり、診断も加齢により変わることがある。こうした障害のある場合、周りから適切な支援や配慮がなされないと、二次的な障害(例えば、より深刻な学習の遅れ、周りの理解不足によるいじめの対象化、自己評価の低下による抑うつ症状、不登校、反抗的な行動の激化など)が起こり得る。

◆ 対応 診断に振り回されることなく、目の前の子供をしっかりと見つけた適切な支援や配慮が必要になる。学習障害と注意

欠陥多動性障害は中核症状が異なり、前者の子供には学力指導やコミュニケーション指導が、後者には薬物療法や行動修正といった対応がとられる。学校現場では一人一人の子供に合わせ、情緒面の安定と学力保障を考慮し、通常の学級、少人数指導、通級指導教室、特殊学級などで教育的支援が必要となってくる。具体的な支援の方法としては、(1)個別に対応しやすい教室内の位置、(2)子供にとって課題が把握しやすい学習環境の設定、(3)共感的理解の態度で、子供の長所や良さを見つけ、それを大切にした対応、(4)周囲の子供への理解と配慮、(5)叱責よりも意図的にほめられる場面をつくり、集団内での有用感の感得の重視など、様々な工夫をすることも大切である。

また、担当教師が一人で抱え込まないための全校体制での取組や医療機関、専門機関との連携、個別の教育計画の立案実施、保護者への理解と連携なども重要なことである。

● 教育研究所だより

若宮庁舎に移転後二年目を迎えた教育研究所は、相談活動、諸会議、資料閲覧などで多くの方に利用していただき、十四年度の利用総合計は一〇、三〇八人であった。今後も、日々の教育活動や教育研究に寄与したい。

- 教育研究所職員
所長 高木 和広
副所長 高橋 鏡二
指導主事 野田 光宏
市川 敏彦
小川 規博
就学相談担当 本多 末子
酒井 順子
山本久美子
不登校担当 太田 理恵
教育資料担当 犬塚 絵理
情報担当 井上 正雄

移転のお知らせ
来る七月八日、教育文化館(税務署跡地)が開館される予定です。それに併せ、文化館内に教育研究所も移転します。移転準備及び整備のため、左記の期間は業務を停止します。
会議室利用... 6・21~7・7
資料閲覧... 6・2~7・27



●表 彰

◆第十五回管楽器個人・重奏

コンテスト 東海大会  
個人の部

羽島市長賞 熊沢 杏実(竜海中)  
中目新聞社賞 金井江里香(岩津中)  
重奏の部

中日新聞社賞 竜海中  
審査員特別賞 岩津中

◆二〇〇三三好カップレディスカヌー大会

五百Mカヤックシングル  
三位 藤島 紗姫(新香山中)  
五位 高山 ゆり(新香山中)  
同ペア

一位 藤島 高山(新香山中)  
五位 加藤、坂田(新香山中)  
二百Mカヤックシングル

三位 藤島 紗姫(新香山中)  
同ペア

二位 藤島、高山(新香山中)  
五位 加藤、坂田(新香山中)

●小中学校のようす

平成十五年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校や学級の数、児童・生徒と教職員の数を表に示した。

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
一校当たり児童・生徒数	509人	597人
一校当たり学級数	17学級	18学級
一学級当たり児童・生徒数	30人	34人



▲屋内運動場増改築 平成14年度完成（六名小学校）

●学年別児童・生徒数（人）

学年	小 学 校						中 学 校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,811	1,818	1,846	1,795	1,767	1,795	1,781	1,808	1,874
女	1,785	1,752	1,784	1,770	1,710	1,729	1,712	1,745	1,828
計	3,596	3,570	3,630	3,565	3,477	3,524	3,493	3,553	3,702

●児童・生徒・教職員数

区 分	学校数 (校)	学 級 <特殊> (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教職員(人) (非常勤講師を含む)			養護教員 (人)	事務職員 (人)		栄養職員 (人)
			男	女	計	男	女	計	県	県	市	県
小 学 校	42	715<55>	10,832	10,530	21,362	437	654	1,091	43	44	0	9
中 学 校	18	319<28>	5,463	5,285	10,748	409	246	655	21	26	7	2
合 計	60	1,034<83>	16,295	15,815	32,110	846	900	1,746	64	70	7	11
昨年度合計	60	1,042<80>	16,487	16,006	32,493	816	883	1,699	63	70	6	11

●芸術鑑賞会

感性を育む心の教育推進を目指して、本年度も芸術鑑賞会を開催する。

本年度はミュージカルの鑑賞を企画した。小学校全学年を対象に、親子での参加を募る。多くの子供が楽しめるよう、積極的な呼びかけを期待する。

●日時 八月八日(金)

●場所 午前・午後二回公演  
市民会館

●演題 「オズの魔法使い」  
劇団ポプラ

●平成十五年教科書展示会の開催

平成十五年度教科書展示会が左記の日程で開催される。

●展示期間

平成十五年六月十一日(水)～  
七月五日(土)

●展示場所  
\*休館日を除く

岡崎市立図書館(明大寺町)



・カ  
ツ  
ト  
大  
門  
小  
山  
中  
武



昭和三十年より、岡崎市現職教育委員会学校図書部会と岡崎図書館協会が中心となって、読書感想文の指導が始まった。以後、各学校で、学校図書館教育が意欲的に進められた。写真は、OHP等の視聴覚機器を利用した新たな図書館活動の様子である。当時、藤川小学校には市内最大の一万余以上の蔵書があり、活発な調べ学習が行われていた。

教育の情報化が話題にされる最近では、以前に増して、学校図書館教育の重要性が高まっている。



## 学校図書館教育 (昭和61年)

写真提供：藤川小学校

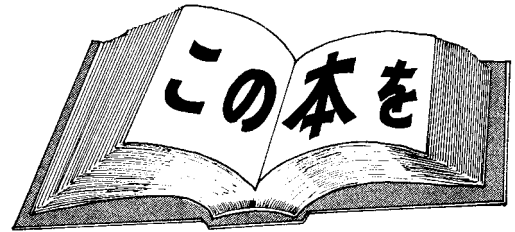
シーボルトが愛した女性の名が学名として残っていることでも有名な花「紫陽花」。花言葉は「辛抱強い愛情」だそう。雨に打たれながらも静かに咲き続ける。そして雨上がり、花に葉に露を光らせる様には、辛抱強く耐えた後の何とも言えぬ美しさがある。

## シ オ ス ア

寸法通りに材木が組み立てられていく。父親たちが、大工のプロを交えて作業する「昆虫の館」作り。力強い父親の背中、子供たちを魅了する。「おやじの会」の活動は、現在全国的に広がろうとしている。学校と家庭がまた一歩近づこうとする工夫がそこにある。

幼子をも巻き込んだイラク戦争。戦乱が終局に向かっても、次々に伝えられる一般市民の犠牲の報道。学校はどうなっているのだろうか。子供が犠牲になった親や先生は、どんな思いだろうか。教室で子供の笑顔を見るにつけ、平和な世界を願わずにはいられない。

雨靴を履いた子供たちが、学校から帰っていく。わざと水たまりの中に入って水を蹴りながら進んでいく。足に感じる抵抗を楽しんでいく。誰しも、子供のころ、同じことをしたと思えるだろう。子供たちは、雨の日には、雨ならではの遊びをつくっていく。



- \*くんずほぐれつ 齋藤 孝 ￥1000  
文藝春秋
- \*梅原猛の授業 道徳 梅原 猛 ￥1300  
朝日新聞社
- \*武蔵と小次郎 津本 陽 ￥1500  
角川書店
- \*嘘つき男と泣き虫女 アラン・ピーズ 他 ￥1600  
主婦の友社
- \*あきらめない 鎌田 實 ￥1500  
集英社

人は、いつか必ず死ぬ。その終焉をどのような形で迎えるのか、重いテーマであるが、誰もがいずれは直面しなければならない。単に延命するだけの医療には批判的な著者が、日々、患者と接する中で模索しているターミナルケアのあり方に心がひかれる。

本書で、著者の育ての親について触れた「家族の絆を結ぶ」の章に、特に胸を打たれた。不覚にも、読んでいて涙が止まらなくなりました。本書は、素晴らしい人間讃歌でもある。